

# ウトナイ湖通信



No.262

2026年3月号



2月下旬から3月にかけて、本州から北上してきたガン類がウトナイ湖を中継地として集います。静かな朝に響く鳴き声と、ロシア東部へと旅立つ圧巻の大群をぜひ体感してみてください。

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

## お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖 3月のイベント情報 ウトナイ湖・水辺の渡り鳥ウォッチング

3月8日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。

※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

- 定員:10名程度
- 対象:一般(小学生以下保護者同伴)
- 申込:不要。直接当センターへ。



3月15日(日) 10:00~12:00

春の渡り鳥として飛来する水鳥を観察します。双眼鏡、図鑑を使いながら、レンジャーが解説いたします。

※荒天時は3/22(日)に延期

- 定員:事前申込先着20名
- 対象:一般(小学生以下保護者同伴)
- 申込:3/1(日)~3/14(土)17時までに電話で当センターへ。



## 楽しく学べる工作 in ウトナイ湖

- ①毛糸のポンポンでシマエナガを作ろう
- ②アイロンビーズでつくるハクチョウ
- ③牛乳パックでサコッシュ作り



3月21日(土) 10:00~14:00

- 定員:①②は各30名 ③60名
- 対象:一般(小学生以下保護者同伴)
- 申込:不要。直接当センターへ。



## 市民ギャラリー

### 「苦小牧の自然写真展」

開催期間:2026年3月6日(金)~3月22日(日) 展示:苦小牧市環境生活課  
市内で撮影された自然景観、野生鳥獣、植物、昆虫などの写真が並びます。



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苦小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前9時~午後5時 / 入館無料

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムーくん



~ ウトナイ湖 ~  
・国指定鳥獣保護区特別保護地区  
・ラムサール条約湿地  
・東アジア・オーストラリア地域  
・フライング・パートナーシップ

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 検索



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。

## シジュウカラ

体重 12 g



搬入時の様子



体の一部に粘着剤が付着していた

### 原因：粘着剤付着

11月25日 市内の民家敷地内でネズミ捕りにかかった2羽のシジュウカラを発見し、取り外した。1羽はすぐに飛んでいったが、もう1羽は飛べなかったとのことで、翌日センターへ搬入。

11月26日 初診にて明らかな外傷は認めなかったが、極度の消瘦。多くの粘着剤はすでに取り除かれていたものの、容体急変し死亡。

11月27日

死亡

シジュウカラ (スズメ目 シジュウカラ科)

全長 14.5cm。成鳥のメスは喉の黒部分が下尾筒まで縦に通るネクタイ状の黒帯になっており、成鳥のオスはこの黒帯がメスより太く、特に下腹では太くなるのが特徴です。今回保護されたシジュウカラは、メスの個体と思われました。一年中、平地や山林などで生息する、身近な野鳥の一つです。

## トピックス



レンジャートーク初開催、テーマはシマエナガ

館内の剥製や展示を紹介しながら、レンジャーがエナガ(亜種シマエナガ)の特徴や生態、観察のポイントなどを分かりやすく解説しました。参加者からは「ますます興味が湧いた」「実際に探してみたい」などの感想が寄せられ、身近な自然への関心を深める機会となりました。

表. ガン類の春の初認日の過去5年の記録

年	ヒシクイ初認日	マガン初認日
2021	3月4日	2月21日
2022	3月11日	2月27日
2023	—	2月28日
2024	2月18日	2月18日
2025	3月7日	2月25日

春のガンの渡りはじまる

3月に入り、本州などで越冬したガンの群れの北上が始まり、中継地としてウトナイ湖に渡来しています。表は、レンジャーがそのシーズンにウトナイ湖で初めて確認した日の、過去5年間の記録です。情報は SNS でも発信しておりますので、ぜひご覧ください。



## ボランティアコーナー

2月に開催したボランティア研修講座「野鳥標本づくり」に講師として参加された よしぬま さんに、インタビューしました。

「野鳥標本づくり」に講師として参加をしようと思った理由はなんですか？

救護しても死んでしまう野鳥がいます。それらを教材用標本として新生させ、多くの方に近くで観て触って学んでもらい、野鳥への関心を深めてほしいと思っています。これまでの標本づくりの経験をボランティアの方に伝えて皆で標本を増やし、観察会などで使ってほしいですね。

参加してみた感想を教えてください。

ボランティアの方々と協力して標本づくりができる機会はありがたいです。もっといろいろな野鳥の標本をつくりたいと思いました。

印象に残ったことがあれば教えてください。

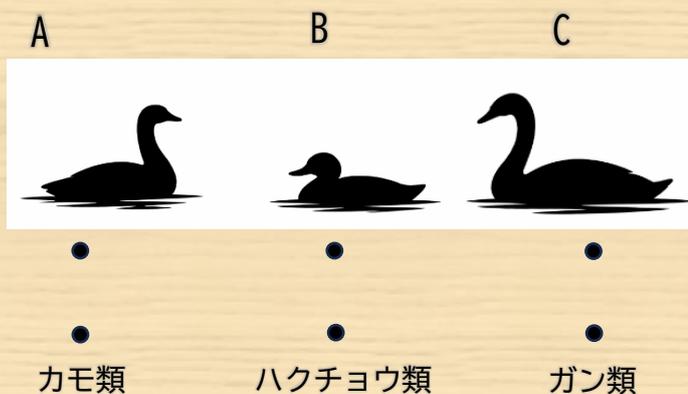
普段は遠くから観察している野鳥ですが、実際に間近で観たり触ったり中身を調べると驚きが多く、より野鳥を深く知ることができました。



参加のボランティアさんに標本について説明する よしぬま さん

## ウトナイ湖 ◀ お楽しみコーナー【ウトナイ湖・クイズ】

ウトナイ湖では、春と秋にガン・カモ・ハクチョウ類を観察することができます。しかし、湖の遠くに浮かぶ姿を見分けるのはなかなか難しいもの。そこで注目したいのが「シルエット」です。右のA~Cを見比べて、どのシルエットが何類か分類してみましょう。



※答えは最後のページにあります。

公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



Facebook



X



